

## 第3回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2017年1月23日（月）15時15分～16時50分

場 所：川崎市役所第4庁舎 第3会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 齋藤、井田、内田、加賀谷

〔事務局〕株式会社ダイナックス都市環境研究所 江澤、北本、谷口

### 1 委員長挨拶

- （委員長）新しく参加してくれた団体がパワフルで、意見も積極的に出してくれた。コンパクトも10周年に向けて変われるかと期待が持てるような内容の交流会だった。

### 2 議題

#### (1)今年度のかわさきコンパクトについて

今年度のかわさきコンパクトで印象に残ったことについて、委員からは以下の意見があった。

- （委員）交流会で指摘があったが、KC そのものが知られていないということがすべての広がりや狭めているのではないか。参加している企業や団体に、KCの率直な意見やニーズを把握する必要がある。
- （委員長）第1回委員会でも説明があったが、参加の輪を広げるために次年度中に宣言を変えることも検討している。
- （委員）10年経って、大きな変革が今までなかったのは残念である。グローバルコンパクトを見据えて、広い分野での活動を実現したい。  
また、もっと外部に向けた広報・発信を行い、KCに参加するメリットが感じられるようにしたい。いろいろなジャンルの団体が一緒に活動する機会が少ないので、垣根を越えて同じ方向に向かって仲間を増やせることなどをアピールしたい。
- （委員）SDGsの17の目標を、ぜひ次のKCの活動ツールとして有効活用したい。新しい冊子の中に17の目標のニュアンスが入れられると良い。
- （委員長）新しい団体の参加にも力を入れるべきだが、すでに参加している団体がどのような活動を行なっているのかを、再度確認、共有する必要があると感じた。全団体が一堂に会せる機会があればと思う。
- （委員）集まっても一度に全団体の話を聞くのは大変である。30団体の活動を聞いても覚えられないし、各団体5分程度の発表時間の確保など、時間の制約がある。10団体ずつの発表を3日に分けるなどして、交流の機会、回数を重ねてはどうか。
- （委員）交流会でお互いを知ること大切だが、会員が自分たちでKCを盛り上

げ、運営に参画するような土壌を作れないか。交流を重ねる一方で、次に何をすべきかを自分たちで考えてもらう機会を設けたい。

➤ (委員) 交流会は年度初めに日時と会場を確定させ、司会進行を会員のメンバーの持ち回りで行ってはどうか。事務局主催のイベントもあっていいが、メンバー主催になるものもあれば交流にもなる。

➤ (委員) 川崎市が企業のCSRを応援する事業はKCが唯一のものである。したがって、例えばCSR大賞の創設など、KCを活用してもっと発信できるイベントがあってもよい。企業のニーズを探って、参加したいと思われるような仕掛けづくりが必要である。

➤ (委員長) コラボ事例をKCでも作っていただけるといい。

➤ (委員) そもそも川崎市がどういう問題点を認識していて、解決したいと思っているのかに立ち戻って考えてみるといい。

ツールとしてすごく良いものなので、今困っているものをどう解決するのか、川崎市が将来どうなりたいたいのかを明確にしてはどうか。市民運動のレベルに留まらず、市としてどこまで考えるか、17の目標のうちどれをピックアップするかなどの選択の問題で、そのためには現状の問題や、将来備えるべき視点がないと選択することができない。

➤ (市) 個人的には、コンパクトが前面に出る時代ではないと感じている。SDGsの17の目標を視野にいれつつも、市民に伝わるように、世界とつながっているという発想に変える必要がある。

➤ (委員) この視点がないと目標に到達することはできない、という様に説明しないと、市民には分からない。具体的な例が見えた方が分かりやすい。

➤ (委員長) KCは環境に特化しているように思われているので、他の分野もカバーしているということが周知できれば、参加する団体も増えてくる。

➤ (委員) まだまだ気が付いていない問題があり、SDGsは、問題発見の足がかりになる。例えば、貧困と言うと途上国の問題だと思われがちだが、川崎市に昼食を抜いている児童はいないのだろうか。そういう見方をすれば問題は見えてくる。

➤ (委員) 全体の人口が減っていく中で、日本人の基礎体力や基礎能力が落ちていく。より高いレベルで人材を再生産しなければいけない。次世代をどうするか。グローバルゼーションの負の遺産をどうするかが課題となる。

➤ (委員長) 川崎の課題を検討していくような場を持つこと、一緒に活動をやっていくことの2点で次年度進めてはどうか。

➤ (委員) SDGsの観点で世の中が別の視点で見えてくる、という内容の講演会をしてほしい。年度初めに、ぜひそれをやりたい。

➤ (委員) 発想の転換という意味でも、いろんな事例を交えた講演会にしたい。年間計画を立て、委員は1年間通じてどう動くか、イメージしておく。

➤ (委員長) ぜひ講演会は実現したい。そしてワークショップもしたい。

### 3 報告

#### (1) 今年度の事業報告について

事務局株式会社ダイナックス都市環境研究所より、資料 1 をもとに今年度の事業報告および報告書、KC 冊子についての紹介が行われた。委員からは主に以下のような意見があった。

#### ●報告書

- 全体的に良くなったという意見があり、特に修正点等はあがらなかった。

#### ●冊子

- (委員) 原稿未提出の団体があるので、参加団体への原稿の提出ルールを明確にした方が良い。
- (委員) 次年度からは、提出がない場合には自動退会にすることを、最初に規定しておく。

### 4. 閉会